JAPAN HONG KONG

飛 FLYING DRAGON 龍

日本香港協会ニュース No.84

キャセイパシフィック航空のジャンボジェットがファイナルフライト

日本香港協会広報委員会

旅客商用フライト最終日のジャンボジェット（キャセイパシフィック提供）

ジャンボジェットの愛称で親しまれた、ボーイング747型機が2016年10月1日に、キャセイパシフィック航空として最後の旅客商用フライトを終えました。就役以来37年もの間飛び続けたことになります。最終フライトは東京（羽田）10：35発、香港行きのCX543便でした。朝方には航空ファンも集まった熱気のなかでこのB747－400型機の機体見学会も開催されました。出発時間が近づくと、出発ゲートではクルーへ花束が贈呈され、ジャンボジェットが就航していた期間のユニフォームを着用した客室乗務員も登場して記念撮影などが行われました。乗客には搭乗記念品が手渡され、合計354名の乗客を乗せて香港へと離陸しました。

キャセイパシフィックにB747型機が就役したのは1979年で、翌年にはジャンボジェットを使用しての香港～ロンドン間の路線が開設されました。日本香港協会会員のみなさまも出張や駐在赴任、またご旅行の際に同機に搭乗した想い出をお持ちの方も多いのではないでしょうか。ジェット旅客機としては初の2階建て構造で、キャセイパシフィックでは改良型のB747－200B型機から導入し、その後2階部分を延長した－300型、－400型が導入されてきました。また、キャセイパシフィックを所有するスワイヤー・グループがイギリス系企業ということもあり、エンジンはイギリスのロールスロイス製を使用した機体が大半でした。ジャンボジェットはそれまでの旅客機と比べて群を抜いた超大型機でありながら、搭乗口などの空港設備をそのまま使うことができるなどのメリットがありました。2016年にはB747－400型機が3機となり、香港と東京および台北を結ぶ路線に使用されていました。

最終商用フライトから1週間後の10月8日には、ジャンボジェットが香港中心地のビクトリア・ハーバー上空を西から東に向かって特別飛行を行い、香港の街に別れを告げました。なお、旅客機での運航は最後となりましたが、貨物専用機は最新鋭のB747－8F型機などジャンボジェットが10機以上活躍を続けています。

2016年12月 発行（禁無断転載）

目　次

キャセイパシフィック航空のジャンボジェットがファイナルフライト……1
70周年を迎えたキャセイパシフィック航空……2
メディアや「香港迷」を通じ、香港の魅力を訴求……3
連合会・各協会便り
全　国：「第17回香港フォーラム」＆「全国協会交流会」開催報告……4
東　京：第43回ビジネス懇話会開催……6
関　西：香港・中国ビジネスセミナー開催／文化部セミナー開催／香港中秋節パーティー開催……7
中　京：海外販路拡大セミナー／愛知県下「城」シリーズ第2弾／「あいちトリエンナーレ2016」開催……8
九　州：香港市場における日本産農林水産物の現状と福岡県産農林水産物輸出拡大に向けた今後の対応……9
北海道：香港から北海道への投資状況について……10
宮　城：女性部会が「秋田県大曲花火大会見学ツアー」にて研修会／広東語教室で飲茶会を開催／YOUYOUクラブ部会が芋煮会を開催……11
沖　縄：香港フード・エキスポにみる沖縄企業の海外展開……12
広　島：香港ブックフェア初出展……13
新　潟：「香港ブックフェア」に参加して……14
高　知：高知県内の経営者たちとの“香港の夕べ”開催……15

70周年を迎えたキャセイパシフィック航空

キャセイパシフィック日本支社

アメリカ人ロイ・ファレルとオーストラリア人シドニー・デ・カンツォーの2人のパイロットが始めた航空輸送事業が、香港で企業登録されたのが1946年9月24日でした。今年で70周年を迎えたキャセイパシフィック航空の始まりです。

草創期に使用されたDC－3型機は、第二次大戦前後の時期に名機とされた大ベストセラー航空機でもありました。エンジン2台を主翼に取り付けた優美な機体は、香港尖沙咀の香港サイエンスミュージアムに展示されており、往時をしのぶことができます。当初は香港を拠点に中国や東南アジア、シドニーを結びました。戦後の航空輸送興隆を見越して英国系企業スワイヤーが資本参加したことで財務体制が強化され、新型機を導入しながら路線網が拡大し、それ以来現在までスワイヤー・グループの一員として発展してきました。1964年には100万人目のお客さまをお迎えしますが、それからわずか9年後の1973年には毎年の利用者数が100万人を超え、現在では毎月約100万人になっています。

日本へは1959年7月の東京、羽田空港への乗入れを皮切りに、大阪、福岡、名古屋などへ路線網を拡大させ、現在ではキャセイドラゴン航空の路線を加えて日本には6都市7空港に就航し毎日20便以上運航しています。60年代は路線網、乗客数も大きく躍進し、4発プロペラ機のDC－6型機に加え、ジェット機コンベア880などが次々導入されました。70年代に入ると航空機は大型化を迎え、通路を2本持つ初のワイドボディ機ロッキードのトライスターが就役します。そして1979年にジャンボジェットB747が導入され、翌年には初めてのヨーロッパ路線としてロンドン線が開設されました。この後、パリやフランクフルト等ヨーロッパ諸都市や北米路線など長距離路線も拡充します。2006年には香港ドラゴン航空（現キャセイドラゴン航空）を完全子会社化し、同社の豊富な中国、東南アジア路線を加えて、路線網は更に充実しました。現在ではキャセイパシフィックグループとして、南米大陸を除く世界200都市以上に運航しています。

また、当社は高い安全性を維持しており、安全評価ランキングでもドイツ「JACDEC」より2015年、2016年と連続の1位を得ています。サービス面では権威ある英国スカイトラックス社の最高賞である「エアライン・オブ・ザ・イヤー」をこれまでに4度受賞し、2016年に同社の格付け最高の5つ星を獲得するなどトップクラスサービスへの定評をいただいています。香港九龍市街地に立地していた滑走路1本の啓徳空港から、1998年夏に現在の香港国際空港へ移転し、利便性が格段に向上しました。新空港は24時間使用可能で、中心市街地とを24分で結ぶ特急列車をはじめ、多種多様な交通手段も充実しています。キャセイパシフィック航空がベースとするこの香港国際空港も、スカイトラックス社による最高評価5つ星を獲得している世界5空港のひとつです。

2015年には新しい機体デザインを発表しました。キャセイパシフィック独自のグリーン、グレー、および白に集約されたカラーパレット、そしてこれまで以上に引き立つ形でのキャセイパシフィックの社名と新ブラッシュウィングが表示されています。新塗装初フライトは同年11月2日に香港から東京、羽田へのCX548便となったことは記憶に新しいものです。2016年1月には香港ドラゴン航空のリブランドにより、同社名をキャセイドラゴン航空に変更することに伴い、キャセイドラゴンの機体塗装にもブラッシュウィングが適用されています。ロゴはカラーリングの濃緑を赤とすること以外は、ブラッシュウィングや社名文字などのデザインを同一として、キャセイパシフィックグループであることを視覚的に認識されやすくなっています。

なお、2016年9月には日本支社長にライオネル・クオック（Lionel Kwok）が就任しました。クオックは1964年香港生まれで、香港大学卒業後、1987年にキャセイパシフィックに入社しました。1994年から1996年まで日本支社長補佐を経験していますので、日本への赴任は今回で2回目となります。どうぞこれからもキャセイパシフィックへのご支持をお願い申し上げます。

新デザインの機体（キャセイパシフィック提供）

ライオネル・クオック日本支社長（キャセイパシフィック提供）

メディアや「香港迷」を通じ、「アガる香港」の魅力を訴求

香港政府観光局

今年7月に、香港政府観光局日本支局は、おかげさまで開局50周年を迎えました。現在、日本支局では、街歩きを通じて、香港独自の食や文化を体験し、気持ちや運気が「アガる」身近な旅行先であることを訴求しています。2016年度は、香港ならではの「お得な体験」や「まだ知られていない」体験を中心に、女性誌、テレビ番組とのタイアップ、SNS、旅行会社店舗など幅広いチャネルでキャンペーンを展開しております。

ご存じの通り、香港の街はコンパクトな上、スターフェリーやトラム、地下鉄など公共交通機関も安く便利なため、短い休みでも効率よく多くの体験を楽しむ事ができます。また、2015年には、英国のシンクタンク、レガタムの繁栄指数でも「世界一安全な街」に選ばれており、街歩きはもとより、ミシュラン・ガイドをはじめとした美味しい食事、上質のホテルライフを楽しむ女子旅や母娘旅でも人気を集めています。今年度、新たな取り組みとして以下のプログラムを実施しました。

◆二階建て観光トラムツアーを50周年記念の特典に

日本支局開局50周年を記念し、日本からの旅行者向けの特典として、今年より運行が開始した二階建てオープントップトラムの観光ツアー「TramOramicツアー」のチケットを無料特典として提供しています。このツアーは、世界でも珍しい屋根のない二階建てのレトロなトラムで香港島を約1時間でまわり、日本語の音声解説付きで香港の街の歴史を学びながら景色を楽しむことができます。無料のツアーは、イルミネーションの美しい11月下旬から1月中旬まで週末の指定日、座席数限定でご案内しています。

◆人気女性誌『an・an』の香港特集とコラボ

秋以降の香港のベストシーズンを前に、8月下旬から9月には、人気のライフスタイル誌『an・an』の香港特集とコラボレーションを実施しました。特集は、地元香港の方、日本の著名人、香港通の皆さんなどからのクチコミ情報を参考に、キャセイパシフィック航空の協力のもと、編集部が現地取材を行いました。発売にあわせ、東京・大阪で地下鉄の交通広告を展開、人気雑誌に特集いただくことで、「おすすめの旬の旅行先＝香港」という位置づけで、新しい魅力を訴求しました。表紙と巻頭特集に掲載された女優の佐々木希さんの写真が印象的で、SNS等を通じ話題となり、香港のメディアでも紹介いただきました。また、特別付録として、「アガる香港　おすすめクチコミつき　香港注目エリアガイド」を制作し、販促ツールとして旅行会社各社に活用いただいています。エリアガイドには、幅広い分野で活躍する香港ファンや香港人のお気に入り、香港政府観光局の公式Facebookに投稿いただいたクチコミを掲載し、新しいおすすめスポットを紹介しています。エリアガイドは、香港政府観光局の公式サイトにも掲載中ですので、是非ご活用ください。

『an・an』の香港特集号

50年前の香港公式ガイドブック

（www.discoverhongkong.com/jp/）

◆「超級香港迷（スーパーホンコンマイ）」によるおすすめ旅の発信

本年より、ライター、編集者、ミュージシャンなど幅広い分野で活躍する香港ファンの皆さんを「超級香港迷」として、実体験に基づいたアガる香港旅のおすすめを発信いただいています。「香港迷」とは、広東語で「香港ファン」の意味で、現在、次の皆さんに協力いただいています。フリーライターの池上千恵さん、集英社の福井由美子さん、写真家の永田幸子さん、イラストレーターの小野寺光子さん、SCOOBIE DOドラマーのオカモト“MOBY”タクヤさんの5名です。超級香港迷の皆さんのおすすめ旅は、香港政府観光局公式サイト内の「アガる香港おすすめ旅ガイド」やマイナビニュースでシリーズ掲載しています。また、デジタルに留まらず、トークイベント等への出演にもご協力をいただき、香港の魅力を発信いただいています。今後も、一人でも多くの「香港迷」を日本で増やしていくことを目標に、活動を拡張していく予定です。

2017年、香港は、返還20周年を迎え、さまざまなイベントが予定されています。節目の年を目前に、香港政府観光局では、2016年11月に、グローバルのキャンペーン“BEST OF ALL, IT'S IN HONG KONG”を開始しました。

日本でも、1月より、デジタルメディアを中心にキャンペーンを開始。テレビ、雑誌など影響力のある媒体やソーシャルメディアを通じ、香港の「BEST」を日本の皆様に広く訴求していく予定です。FacebookとTwitterもおかげさまで、10万人を超えるファン、フォロワーの方々に応援いただけるようになりました。日本香港協会の「香港迷」の皆様にも、引き続き、香港の魅力の発信にご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。

NATIONAL

日本香港協会 全国連合会 事務局

「第17回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告

日本香港協会全国の10協会がすべて香港に集まりました

◆第17回香港フォーラムにて、日本香港協会が8年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！

去る11月29日・30日、香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内）の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第17回目の開催となった本年は、全世界から370名以上の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムも、日本全国の参加者が世界全体の総参加者数の約4分の1を占める、総勢93名を数え、国別での参加者数が世界一となり、8年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、中京日本香港協会が年間を通して行ったイベント・プロジェクトの中から最も成果をあげた活動に対して授与される「ベスト・イニシアティブ・アワード」を見事受賞しました。今回受賞対象となったイベントは、中京協会と香港貿易発展局の共催で、2015年11月26日に名古屋で開催された「香港・中部ビジネスシンポジウム～国際化へのパートナー・香港～」と題する大型プロモーションで、地域の官界・財界のトップを含め全体で約500名の参加者がありました。本イベントのメインシンポジウムでは、中部地方の中堅・中小企業に対して香港を足がかりにしたアジア市場進出を提案、また分科会では食品と伝統工芸品を香港市場へいかに売り込むかについて多くの成功事例が紹介されるなど、香港の優位性を十分にアピールしたイベントとして高く評価され、今回の受賞にいたりました。

11月28日・29日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。1日目の講演会では、「一帯一路の道しるべ」、「ゲームチェンジャー」など常に新しいチャンスやアイディアを得ることが可能な香港ならではのプレゼンテーションが展開され、昼食講演会では「舞台裏のスターたち」と題して世界最大で最もダイナミックな香港エンターテイメント業界のインサイダーストーリーを、著名なプロデューサー施南生氏、作曲家・プロデューサー雷頌德氏が紹介しました。1日目の最終プログラムとなるオプショナル視察ツアーでは、「香港海事博物館」「立法会総合ビル」「メイホーハウス生活館」「コクーンシティ」など普段あまり訪れない場所への視察を、おのおの自由に選択したツアーをガイド付きで楽しみました。

2日目のセミナーでは「チャンスの窓を通して」と題

「ベスト・イニシアティブ・アワード」を受賞する中京日本香港協会の皆様

して海外企業家たちの成功談、また昼食講演会では「受け継がれる伝統の活性化」と題し、21世紀の今、香港の家族経営において、次世代へ経営がどのように革新的に受け継がれていくのかについて、家庭用品企業“German Pool”、建築企業“Ronald Lu & Partners”の有能な二代目経営者2名の目を通して語られました。

最終日のフェアウェル・ディナーでは、宮城日本香港協会が協会設立10周年を記念し、日本の着物文化を世界に広める活動を目的とする団体、特定非営利活動法人「美・JAPON」との共催で、日本古来の着物を現代の晴れ着として蘇らせる創作衣装を、和楽器の音楽と融合した「文化交流ファッションショー」として上演、300名を超える全世界の参加者から大絶賛を浴びました。宮城日本香港協会は、東北大震災以降、被災者支援のためチャリティーコンサート、ファッションショーなどをNPO法人「美・JAPON」等との協力で数多く開催しています。また、NPO法人「美・JAPON」は文化交流舞台作品を日本各地の他、外務省大型文化事業などの招致作品として世界各地でも上演しています。

フェアウェル・ディナーにて8年連続でベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会

フェアウェル・ディナーでは世界中のメンバーが名刺交換をする国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。

◆日本香港協会全国の10協会がすべて香港に集まりました

香港フォーラムの前日、11月28日には、「グランドホール（名爵）」にて第8回全国協会交流会が開催されました。また、交流会に先立ち日本香港協会全国連合会総会が開催され、第5回総会として今年一年の活動を振り返るとともに、来年の新たな事業計画が討議されました。

ファッションショーフィナーレで（中央左より宮城協会小野寺会長、「美・JAPON」小林栄子理事長、池田やす子副理事長および篠笛奏者、モデル、スタッフの皆様）

全国交流会では本年度の幹事協会である九州日本香港協会の進行のもと、事務局の前田康博氏の司会により、全国連合会木全千裕会長の開会挨拶、在香港日本総領事館井川原賢首席領事の来賓挨拶、香港貿易発展局国際事業本部長アイリス・ウォン氏の乾杯の挨拶で幕を開けました。また、九州日本香港協会からは里地帰（さとちき）さんが二胡のパフォーマンスを披露され、なごやかな演奏に参加者一同楽しい時間を過ごしました。

全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も100名以上の方に参加いただき大盛況の会となりました。また、2016年6月に設立された高知日本香港協会からも、今回初めてとなる香港フォーラム参加に先立ち、全国連合会総会、交流会へもご出席いただきました。

今年ご参加いただけなかった方におかれましても、来年度は是非ご出席いただき、メンバーとの交流、ネットワーキングを深めていただければと思います。

香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁を囲む各地日本香港協会会長と代表者の皆様

NPO法人日本香港協会　ビジネス交流委員長　佐藤　征洋

第43回ビジネス懇話会開催

NPO法人日本香港協会は、香港貿易発展局の後援の下、本年7月23日、午後6時半より学士会館において法政大学大学院教授・松田庄平先生を講師にお招きして、第43回ビジネス懇話会を開催いたしました。演題は“21世紀最大のファイナンシャル・イノベーション、中国の人民元経済圏創設の野望と現状”であり、また中国で進行中の一帯一路構想の現状や見通しをも解説いただき各方面からの参加者に大変有益なセミナーになったと考えます。

講師の松田先生は、1977年東京銀行に入社。在米の経験を経て、東銀リース香港の社長をされ、1992年、香港上海銀行（現HSBC）に入行、在香港日系法人部長、事業法人部長等を歴任され、また前職はHSBC投信株式会社代表取締役であることから、現場の生の情報を加味しながら、アカデミックなお話をいただきました。

恒例により、セミナー開催に先立ちNPO法人日本香港協会の原田理事長から開催の挨拶と松田先生の紹介がなされ、特に今回は香港貿易発展局の後援を得て、多方面から多くの参加をいただき、盛会となったことへの謝意が述べられました。

◆一帯一路構想と金融戦略

セミナーの内容は、一帯一路構想の要約から始まり、その規模の大きさ即ち2015年の中国企業が契約に関与する国数が60に上り、プロジェクト数も4,000件、契約総額が926億ドルに上っていることを初め、その量や質まで広い内容を解説するものでした。また中国政府の戦略、戦術や目指しているところを“野望”を含め、詳しくお話しいただきました。

また、中国政府主導のアジアインフラ投資銀行（AIIB）の現状、投資状況や日米主導のアジア開発銀行との対比や、IMFのなかで主要通貨となった人民元の動きや今後の予測される動向にも言及、中国の過去の投資失敗額にも触れていただく等、他では聞けない内容を含み、大変興味深いものでした。

セミナー終了直後は質疑応答となり、参加された企業、大学研究所や個人事業者からのざっくばらんな質問や意見交換がありましたが、丁寧なご説明と解説・回答をいただきました。その中では、松田先生から“日本は一帯一路には入っていないが、プロジェクトが進行するに伴い、最も利益を得るのは努力する日本の企業ではないか”とのお話をいただき、香港は一帯一路の構想の中で、起点として重要な役割を果たすだろうとの意見もありました。

引き続き行われた立食パーティでは、時間を忘れて気楽に松田先生とお話しでき、参加者が情報交換を行い、日本香港協会の参加者との有益な交流とすることができました。なお、本講演の開催が後日人民日報に取り上げられ報道されたことは特筆されます。

◆今後のビジネス懇話会とビジネス交流について

日本香港協会（東京）が主催するビジネス懇話会は約3か月に1回の頻度で会員のビジネス交流を目的として開催されております。香港並びに国際ビジネスに実績を持たれた講師陣を選定し、セミナーと懇親会を通じて会員にはビジネス交流の場として活用いただいており、香港貿易発展局東京事務所の協力も得ながら、香港を通じたグローバル展開を考えられている企業の方々、最新の香港ビジネス事情を知りたい方にもお役に立てるものと考えております。

また第44回ビジネス懇話会は11月18日に開催され、関西学院大学フェローである美野久志先生に「TPP、FTAを巡る貿易・ビジネス事情～香港の役割、中国との関係について～」をテーマにお話を頂きました。今後も引き続きたくさんのテーマをもって企画してまいりますので、会員の皆様及び関係者の方からより忌憚のないご意見ご要望をお待ち申し上げております。

（Email：Tokyo@jhks.gr.jp）

講演中の松田教授

熱心に講義を聴く参加者

関西日本香港協会　事務局

香港・中国ビジネスセミナー開催 ～消費市場としての香港の魅力、香港からアジアへ～

当協会では昨年に引き続き消費市場としての香港の魅力をPRするセミナーを7月20日に開催したところ79名の参加者を得て盛会でした。

◆講演1：「消費市場としての香港の魅力」
講師：香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏

伊東氏は豊富な資料に基づき、香港の経済全般、主要産業、税制、外食市場、日本食の流行、日本化が進む小売市場、ネット販売、中国やアジアへのゲートウェイとしての香港の機能、などについて詳しく説明されました。富裕層人口が多く、海外からの来訪者が年間6,000万人もある香港では特に外食産業が盛んで、対日感情のよい香港が日本企業にとってビジネスチャンスの多い魅力的なマーケットであることがよく理解できた講演でした。

◆講演2：「中国華南地区を目指してのCHOYAの香港進出から、30年後の現状」
講師：チョーヤ梅酒株式会社代表取締役金銅重弘氏

金銅社長は関西日本香港協会の理事です。日本固有の梅酒を海外で販売する世界進出の第一歩を30年前に香港からスタートされ、現在ではドイツ、アメリカ、上海、シンガポールに現地法人を設立し世界60カ国以上に梅酒を販売しておられます。中国華南地区を目指して30年前に香港へ進出された当初は和食レストランでも需要が少なく相当苦労されたようですが、卸から小売にターゲットを変更し、アジアの華人経済圏で地道に有力な人脈づくりに努力され、テレビコマーシャルを活用して「CHOYA」のブランド化に成功しておられます。「華人ネットワーク」への参入と「ブランド戦略」が「香港からアジアへ、そして世界へ」の国際ビジネスに成功する鍵であることを学ばせていただいた講演でした。

香港・中国ビジネスセミナー

文化部セミナー開催「Make A Wish」—ART & JAZZ from 龍神—

6月20日に当協会会員で堂島リバーフォーラムの取締役プロデューサー古久保ひかり氏に講師をお願いして

文化部セミナー

「『Make A Wish』—ART & JAZZ from 龍神—」と題した文化部セミナーを開催し23名が参加しました。古久保氏は大阪のイベントホール・堂島リバーフォーラムで近代アートや建築、ジャズコンサートなどの文化的イベントを企画プロデュースし、「青紀ひかり」の名前でジャズ歌手としても活躍中です。4年前に香港の有名な通りの名前「ICE HOUSE STREET」と題したCDリリース記念ライブを香港の歴史的文化施設“The Fringe Club”で実施して大成功を収め、現在では毎年香港、シンガポール、台湾でジャズライブを行っておりアジアでも人気急上昇中です。

古久保氏は、温泉郷として有名な和歌山県の龍神村で生まれ、幼少時を人口3,500人の龍神村で過ごし、社会人となってファッション関係の仕事でイタリアに出張した際にミラノのクラブで歌っていた女性歌手の姿に感動、ジャズ歌手になる目的で27歳の時に米国のニューヨークに行ってジャズの修業をして立派な歌手となりました。自分の夢を実現するために全力で生きた生き様と、文化を通じて人と人とを結び付けたいとの思いと志がセミナー参加者に強い刺激になったと思います。

香港中秋節パーティー開催

当協会では関西と香港の経済・文化交流を目的に年々様々なイベントを開催していますが、会員相互の懇親を目的としたネットワーキングイベント・香港中秋節パーティーを去る9月20日に中華料理・大阪聘珍楼で開催し41名の参加者がパーティーを楽しみました。

パーティーは木全千裕会長の開会挨拶で始まり、戒田真幸事務局長の音頭で乾杯した後、お酒飲み放題のパーティー特別料理とラッキードローを楽しみ、田中義次副会長の閉会挨拶で楽しいパーティーを終了しました。

香港中秋節パーティー

中京日本香港協会　事務局長　佐藤　亮一

海外販路拡大セミナー「日本の伝統工芸品を香港を通じて世界へ」

- 「トレンドセンターとしての香港～その現状と展望」香港貿易発展局展示会市場開発部ディレクター、ジョニー・ワン氏
- 事例紹介として「みずなみ焼きの海外展開の歴史」日本陶磁器工業協同組合連合会理事長河口一氏
- 「海外展開における心構え～効果的なPR方法とは～」　ワイズコンサルティングカンパニー㈱代表取締役山本雄彦氏
- 香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏による香港経済の現状

上記4者による講演会が9月29日愛知県産業労働センターにて88名の聴講者の参加のもと開催された。熱意ある講演にペンを走らせる参加者も多く見られた。

特に現在、グローバルビジネスとしての香港は世界一自由な経済及び世界で最も競争力のある経済のほか、海外企業にとり地域本部、事務所開設に最適の地としての存在感がある。それらを注視すべく香港市場への進出、そして将来的に中国市場への進出は、香港であれば地理的、規模的に限られたマーケットのため自社商品に対する消費者が見やすいというメリットがある。

但し、香港における商法関連法規として「商標条例」及び「商標規制」が施行されており商標登録を行うことで商品・サービスにかかる商標の独占的使用権を持つことができるので、他社が断りなく使用した場合法的手段に訴える可能性までの手続きが必要と思う。何故なら香港での登録区分は45クラスに分かれており、クラス1～34までが商品、35～45がサービスで、これをクリアーすれば10年間権利が保証され申請から6か月程度で手続きが完了する。この情報は、最近の「香港ポスト」で採り上げている。

清洲城にて

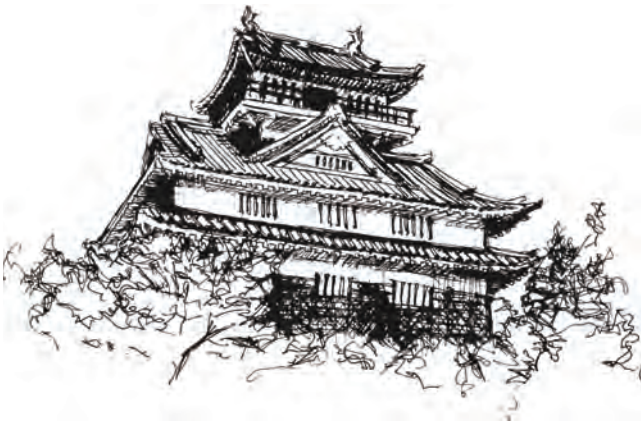
重ねて私見であるが、商標登録を通した知的財産権の保護対策を怠らないリスク回避が必要と思う。

愛知県下「城」シリーズ第2弾

夏季会員親睦会として「清洲城」及び「岐阜城」を探訪した。

清洲城は、弘治元年（今から460年前）織田信長が那護野城から移って大改修の上10年間居城とした。信長死去の後、慶長14年（407年前）徳川家康により清洲から名古屋への遷府が指令され、清洲城下は俗にいう「清須越し」で名古屋城下へと移行された。今回、恒例の親睦会の一環として2016年9月、30名の参加者により全員地元の歴史に触れる一日を体験をした。

もう一方の岐阜県「岐阜城」については、初めて見学したが再度行くには足腰を鍛えないと、年齢的に考慮すれば難敵と痛感した。岐阜城は、標高329ｍの金華山に築かれた山城だからである。古くは稲葉山城といい斎藤道三が入城。しかし永禄10年（450年前）には織田信長が開城し名前を「岐阜城」と改めた。ロープウェイを利用し急激な階段を更に200ｍ以上登る。あまり真夏に行くべきではない、個人的感想ではあるが。



「あいちトリエンナーレ2016」開催

3年毎の国際芸術祭が第3回目として名古屋、岡崎、豊橋3市中心に実施された。独自な創造性作品を世界に発信している。8月11日から10月23日まで74日間開催された。

現代芸術の普及・教育により文化・芸術の日常生活への浸透を図るのが目的。名古屋市内長者町地区では当協会豊島会長がPR理事として活躍されている。江戸時代には名古屋城下の中心地として栄え、戦後は東京日本橋横山町、大阪船場丼池筋と並ぶ日本3大の繊維問屋街の一つであり、トリエンナーレの中心地でもある。因みに第1回57万人、第2回62万人の観客を集客した夏のイベントである。

福岡県香港事務所　所長　藤木　重尚

香港市場における日本産農林水産物の現状と福岡県産農林水産物輸出拡大に向けた今後の対応

1. 香港における日本産農林水産物市場

農林水産省が発表した2015年の農林水産物輸出額は7,451億円となり、そのうち香港は1,794億円と約1/4を占め、国・地域別輸出額で首位に位置している。日本各地の産地が、関税や規制がほとんどない香港への輸出を目指し、近年の輸出拡大を牽引するとともに、産地間競争を巻き起こしてきた。

九州・福岡産の農林水産物は、地理的近接性や利便性の高い航空便を武器に、量販店で棚の多くを占めているほか、関係者の努力により日本食料理店だけでなくフレンチ・イタリアンレストランやスイーツショップなど、多様な飲食店にその販路を広げている。

一方で、人口730万人の香港市場には現在も全国の産地が輸出拡大を目指して競争しており、生産地域による差別化が容易ではなくなっている。

2. 香港における福岡県産品のPR

これまでの海外における日本産農林水産物プロモーションの多くは、小売店において「○○県フェア」などと称して数日間の試食販売を行うものや、日本料理店でご当地食材を使用した料理を提供するものであった。現在も日系小売店を中心に開催されている日本産農林水産物フェアは、特に週末には多くの買い物客で賑わっており、盛況な日本食料理店も多い。

一方こうしたフェアは、開催期間中はポスターや大きなPOPなどで消費者の目に触れることができる一方で、通常時にはそうした目印が消えてしまうため、生産地によっては、購入や食事をしてもらうことが難しくなる。

このため生産地を消費者に認識してもらうためには、新しい仕掛けが必要であろう。福岡県では、こうした観点から日系小売店や日本料理店以外でも「福岡県」という産地を印象付けるための取り組みを行ってきたので、最近の事例を以下にご紹介したい。

(1)料理教室を活用したPR……香港の料理教室「ABCクッキングスクール」において、福岡県産のあまおう、八女茶、元気つくし、福岡のりを使用した料理教室を半年間開催し、受講者にPRした。またメディア向けのプロモーションでは、新聞、ウェブメディアなど65媒体に掲載されたほか、紹介された料理は、カフェのメニューとしても採用された。受講者やメディアの関心は非常に高く、観光にも訪れてみたい、ぜひ現地で美味しいものを食べてみたいと好評であった。

クッキングスクール

(2)空港ラウンジにおける八女茶PR……日本航空のご協力により、香港空港のラウンジにおいて八女茶を提供した。香港では宇治茶の知名度が高いが、今までに飲んだことのない味わいとして好評で、「福岡の八女茶」を強く印象付けるとともに、日本や香港での販売店について尋ねる搭乗者も多くみられた。

ラウンジでの八女茶提供

(3)福岡の高級食材を利用したファンミーティング……当事務所が運営するフェイスブックのファン向けに、香港のレストランおよび福岡の寿司店主に協力いただき、新鮮なウニをはじめとする水産物、採れたての野菜など県産食材を使った料理と、食を中心とした福岡の最新観光情報を提供するファンミーティングを開催し35名が参加した。参加者全員が、福岡に対して「食が安くておいしい街」とのイメージを持っており、実際に福岡を訪れて地元の食材を味わいたいと好評であった。

3. 輸出拡大に向けた今後の方針

上記の取り組みは、すべて香港での食のPRとともに、観光に来て福岡で味わっていただくようPRする目的も有している。

現在、香港から福岡空港まで週31往復の航空便が就航しており、2013年から毎年増便している状況である。植物検疫の規制が厳しくない香港には、手土産として果物などの青果物を購入していく観光客が多い。また慌ただしい香港を離れ、日本の田舎の原風景や地元の食べ物を楽しみたいという香港人観光客も増えており、当事務所では、フェイスブックで地方のフルーツ狩りや道の駅、農産物直売所などの記事を増やし、地元産の食材を購入してもらえるよう誘客を図っている。

県内自治体との連携も強化している。香港向け野菜の輸出に取り組む大刀洗町が7月に「大刀洗枝豆収穫祭」を開催した際、名産の枝豆、地元産小麦を使用したビール、収穫祭の様子を当事務所のフェイスブックで情報発信するなど、地元野菜の販売促進と誘客双方のPRを実施。八女市とは、同市の外郭団体が主催するバスツアーにおいて、当事務所の支援により香港人観光客の募集を行い、地元の直売所やレストランに案内するなど、農産物と観光を組み合わせたPRを行った。多くの香港人観光客が訪れる本県では、上記のように旅先での購買体験と結び付けて、香港へ戻った後も、福岡県産品を継続的に購入していただけるよう、観光と県産品輸出拡大を両輪で進めていくことが重要である。

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

香港から北海道への投資状況について

香港からの訪日観光客は円安傾向の持続などを背景に伸び続けています。日本政府観光局（JNTO）によると、2015年通年の訪日香港人の数は前年比64.6％増の152万4,000人で過去最高を記録しました。今年に入ってからも単月で10万人を超え続け、上半期（1～6月）の累計は前年同期比25.5％増の86万8,000人と通年で170万人を超える勢いです。地方空港への直行便就航やチャーター便運行、JNTOが香港で地方の魅力を訴求する訪日旅行プロモーションを強化したことなどから、北海道や沖縄などの地方を含め、幅広い旅行先が人気となっています。

◆北海道の観光需要

2015年に北海道を訪れた外国人観光客数は前年比35％増の約208万人、うち香港からは約16万人で中国、台湾、韓国に次ぐ人数です。新千歳空港の発着制限が10月30日から緩和されたことに伴い、香港航空の香港－札幌間の定期便が拡充されるなど、更なる観光客の増加が見込まれます。香港からの観光客は、個人旅行かつリピーターが多く、また短期滞在の買い物目的から、欧米人のような長期滞在の体験重視に変化しています。こうした変化は香港など外国の投資家にとってビジネスチャンスと捉えられています。

今や日本を代表する冬の国際リゾート、ニセコ地区では、アジアや欧米からのスキー客が急増しています。ニセコ地区は札幌から西南へ約100kmに位置し、標高1,308mのニセコアンヌプリ山の裾野にあるニセコ町と倶知安町に広がる4つの広大なスキー場があります。2014年ニセコ地区に宿泊した外国人の延べ宿泊者数は44万人で、北海道全体の470万人の約1割を占めています。これを国・地域別でみると、09年は、ニセコ再開発の火付け役となったオーストラリアが最多46％の9万7,000人を占め、香港や中国などアジア主要8カ国・地域は41％の8万5,000人でした。それが5年後の14年では、アジアが50％の22万人、オーストラリアが32％の14万2,000人と逆転しました。さらに昨シーズンは、ニセコ地区のホテルに泊まった外国人のうち、香港とシンガポールだけで49％を占める月もありました。

スキーリゾート開発予定地

◆投資動向とマンパワー

このような観光需要の高まりを受けて、投資も動き出しています。14年末のニセコ地区のコンドミニアムやホテルなどの宿泊施設数は旭川市や釧路市の倍以上の計355です。収容人数も釧路市の1万3,190人、旭川市の9,733人を凌ぐ1万6,926人で、好調な観光需要を背景にオーストラリアや香港、マレーシアなどからの投資があったためとされています。最近でも宿泊施設への投資は旺盛で、例えばオーナーが富豪香港人である、ヒラフの高級ホテルの「シャレーアイビー」は開業3年目の昨年12月、約20億円で客室数を33から78に増やしました。

活発な投資行動は土地価格の高騰を引き起こしています。今年の公示地価で住宅地の値上がり率全国1位は、倶知安町旭の別荘地で、近くに香港資本のスキー場「HANAZONOリゾート」があり、3年後には米国系高級ホテル「パークハイアット」が開業する予定です。また、今年の路線価で上昇率全国1位の倶知安町山田では、コンドミニアムの分譲価格が1㎡当たり約140万円と3年で4割も高くなりました。土地代は、ゲレンデに近い一等地は1㎡当たり50万円近く、少し離れても30万円程度と、札幌の都心並みの水準となっています。1室4億円台のコンドミニアムの最上階や、1棟3億～5億円の高級別荘なども香港やシンガポール、タイ、マレーシアなどの富裕層に次々に売れています。世界の富裕層の関心が集まって、高級施設の建設投資を呼び込んでいる状況です。

一方、ニセコ地区では人手不足が深刻化しています。今年8月の有効求人倍率は2.0倍で、北海道全体の1.07倍を大きく上回り、39カ月連続して北海道内で最も高い地域になっています。ホテルなど宿泊施設のほか、建設関連の労働者、飲食店やスーパーの従業員、スキーのインストラクター、医療機関の通訳など、人手不足は広範囲の業種に及びます。

北海道の基幹産業である「観光」をきっかけに、香港など外国資本による「投資」が、今後さまざまな産業に大きな影響を及ぼしていくことが考えられます。地方における地域活性化の一例として引き続き注目していく必要がありそうです。

ヒラフ地区別荘

MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会事務局　武田　功

女性部会が「秋田県大曲花火大会見学ツアー」にて研修会

「見上げてごらん、夜の煌めく行雲流水の花火を！」8月27日(土)～28日(日)と、大坪代表理事以下会員総勢21名参加のもと秋田県大曲花火大会へ行ってきました。第90回の節目を迎えた大曲の花火大会、伝統と歴史を大切にと、全国から選び抜かれた28人の花火師が競演、ベートーベンの交響曲第九やカルメンのBGMをバックにしながら上空で花が咲く大輪の花火に、参加者一同、歓喜の声がいつまでも止みませんでした。空に向かって手を上げ、スターマインや牡丹が消えるまで、じっと見とれていました。

宿泊は田沢湖湖畔の宿に一泊、次の日は乳頭温泉郷の鶴の湯や、伊達家により再建された奥の正法寺を拝観しました。

バスの中で感想を聞いたところ、「移動研修会の企画はいつも楽しみで、来年の夏祭りもぜひ参加したいです」と、コメントを頂きました。台風前の晴天に恵まれたひと時でした。

広東語教室で飲茶会を開催

7月から始まった広東語教室、第2・4火曜日の月2回の教室ですが、情熱あふれる荒川先生の教師ぶりに、いつも笑いが絶えません。広東語を通じて香港の文化に触れ、時には月餅など香港のお菓子を食べながらの教室に、受講生もいつしか香港ファンになっています。今回は、8月23日(火)の第2回目の教室を途中で切り上げ、先生の推薦もあって広東料理で有名な美香園にて飲茶会を開催しました。体調不良等で欠席の方もいましたが、総勢5名の人が参加しました。出てくる点心そして先生のボードを使った解説と、実践さながらの飲茶会にみんなで笑いながら勉強、味見と、五感で感じながらまるで香港で飲茶をしているようなひとときでした。

荒川先生が分けてくれました

楽しい飲茶会のひとときです

来年3月まで計18回の教室ですが、先生から今度は何が飛び出してくるか、楽しみです。

YOUYOUクラブ部会が芋煮会を開催

10月23日(日)恒例の芋煮会を開催しました。場所は名取川沿い茂庭荘河原側で、風も無く秋晴れの絶好の日和で総勢40人が参加、小野寺会長の挨拶、大坪代表理事の乾杯で始まり、和気あいあいと楽しく過ごすことができました。偶然にも、隣には宮城広島県人会が同じく芋煮会を開催、日本シリーズで広島カープが前日勝利した余韻もあってか、広島風お好み焼きとお酒の差し入れもいただきました。

飲み食べ疲れた方は河原で一休み、茂庭荘のお風呂に入るなど、それぞれ思い思いに楽しんでいただきました。

今年はバーベキューも、まさに食欲の秋です

日本香港協会全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局　東京事務所内
電話（03）5210-5901　FAX（03）5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京）
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話（03）5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話（06）4705-7030

中京日本香港協会
〒460-0003　名古屋市中区錦2-11-27　TH錦ビル8階
株式会社喜斎内　電話（050）3620-2517

九州日本香港協会
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2丁目9-28　会議所ビル1階
地域企業連合会　九州連携機構 内　電話（092）451-8610

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-7
北洋銀行国際部内　電話（011）261-4288

宮城日本香港協会
〒980-8520　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北本社　営業部内　電話（022）212-5550

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話（098）868-3758

広島日本香港協会
〒730-0052　広島市中区千田町3-7-47　広島県情報プラザ3階
（公財）ひろしま産業振興機構　国際ビジネス支援センター内
電話（082）248-1400

新潟日本香港協会
〒951-8052　新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内　電話（025）365-0001

高知日本香港協会
〒780-0822　高知市はりまや町1-7-7　川村ビル4階
株式会社ティーエルホールディングス内　電話（088）856-9112

URL　http://www.jhks.gr.jp

沖縄日本香港協会

香港フード・エキスポにみる沖縄企業の海外展開

香港フード・エキスポが今年も8月11日～13日の日程で開催され、沖縄日本香港協会の会員である大城純市氏が参加、弁護士の立場から香港フードエキスポにみる沖縄企業の海外展開について伺いました。

――香港フード・エキスポに参加された目的を教えてください。

大城　沖縄からも香港に進出している企業がありますが、やはり食に関する企業が多いということがあります。競争が激しい香港のマーケットで沖縄の中小企業が、海外展開をするための新商品開発やパッケージを含む販売方法などを実際見ることが目的でした。

巨大な香港コンベンションセンターで、香港・中国のマーケットへの進出をめざす多くの企業、多くの商品・サービスを見ることができたことは大変有意義でした。

――香港フード・エキスポに参加された感想を教えてください。

大城　香港には食に関して本当に多くの様々な国・地域から企業が進出していることがわかりました。日本製品は安心・安全というブランドイメージが浸透していると思いますが、単においしいだけではなく、アレルギー対策のためのグルテン・フリーの餃子がありましたが、新たな機能・付加価値を加えた商品も可能性があると感じました。

またパッケージや商標デザインなど国際的に流通させながら、各国の法律に基づいた表示を行うことは重要です。一方、日本の製品のパッケージをすべてその国の文字にするのではなく、日本語のデザインを残しながら、誤認がないようにその国に適合した内容・成分表示し差別化を図っていく工夫も必要かと思います。

現在、沖縄県では沖縄アジア経済戦略構想の下、大型MICE（Meeting・Insentive・Convention・Exhibition, Event）施設が計画されていますが、香港コンベンションセンターの運営は素晴らしいと感じました。沖縄のMICE施設でもスタッフの養成、多言語化に対応したサービスの提供等、沖縄はもっと香港を参考にしていいのではないかと感じました。

JAおきなわのブース訪問

――香港律師会（弁護士会）とのMOUについて教えてください。

大城　沖縄弁護士会は、香港律師会とMOU（業務協力覚書）を結んでおり、今回の香港訪問では、その交流も重要な目的でした。フレッド・カン弁護士をはじめ役員の方々と専門家同士で、意見交換・交流することができたのは大変有意義でした。香港律師会とはMOUを生かし、沖縄の企業の香港進出がスムーズにいくよう、沖縄弁護士会としてビジネスサポートができればと考えております。

日本の人口が減少し、アジアの市場の拡大が注目されているとはいえ、中小企業にとりまして海外進出は様々な課題があります。沖縄の中小企業の皆様も、香港フードエキスポのような機会にまず参加して頂き、香港・アジアのマーケットを肌で感じ、海外進出を展開して頂きたいと思います。

大城純市弁護士

フレッド・カン法律事務所訪問

HIROSHIMA

広島日本香港協会事務局　水野　修一

香港ブックフェア初出展

広島日本香港協会では、設立5周年を記念する事業として、7月20日～26日に香港コンベンション＆エキシビションセンターで開催された「第27回香港ブックフェア」ジャパン・パビリオンに初出展しました。広島県観光連盟、尾道市、尾道観光協会、広島県空港振興協議会の協力を得て出展し、広島県の魅力（観光、文化、産業等）情報の発信、経済交流と観光インバウンド誘致を目的とする地域プロモーションを行いました。期間中101万人余りが来場したこのイベントで、広島県ブースにも老若男女、多数の入場者が訪れ、とりわけ若い層が多数訪れていました。また日本や広島に対し非常に好意的で、ぜひ訪問したい、また近く訪問する予定がある、行ったことがある、といった人も多くいました。

◆観光紹介とイベント

ブースでは広島県の観光紹介、広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「しまなみ海道」と沿線の観光紹介、広島産品の紹介、平和コーナーなどを設けました。また体験型イベントとして、しまなみ海道サイクリング体験を行いました。これは実際に自転車に乗ってペダルをこぐと、自転車と連動したスピードで映像（しまなみ海道の風景）が動くものです。小学生から高齢者まで多くの方に体験してもらい、楽しんでいただきました。サイクリングマップを片手に詳しい説明を求める人も多く、「実際に広島へ行ってみたい」「しまなみ海道から○○まで自転車移動してみようと思う」などの感想を多く耳にしました。一方で自転車に乗れない人も多く、転倒する心配のない体験マシーンでも怖がる人を多数見かけました。就学前には乗れる子の多い日本との違いに驚かされるとともに、香港をターゲットとしたサイクリング需要の掘り起こしにはまだまだ余地があるものと感じました。

同様に体験型イベントとして「けん玉」を用意しました。これは広島県廿日市市が発祥の地と言われているものです。日本ではけん玉は子どものおもちゃというイメージが強いのですが、最近ではけん玉ブームもあり、競技としても注目されています。香港の人のイメージはどちらかというと後者のようです。自由に手に取って楽しんでいただきましたが、ほとんどの方は遊び方がわからない、教えても大皿に乗せることもできない中、アクロバット的な技を披露してくれる方もいました。けん玉発祥の地として少しでも広島の名を知っていただけたのではないかと感じています。

しまなみ海道サイクリング体験

◆出展して気づいたこと

ブースを運営してみて、初めて気づくことも多くありました。観光PRでは2つの世界遺産（原爆ドームと宮島厳島神社）に興味・質問が集中するのかと思いきや、その他の観光地にもとても関心を持たれていたようで、意外な場所が香港の人に人気があり驚かされました。また、広島への訪問ルートは、九州から関東まで幅広い経由地があることも現場で話してみて気付くことでした。PR物として用意した航空機直行便の時刻表入り「うちわ」は人気で、手にされる方の数は想像以上でした。

直行便が広島に飛んでいることを知らない人が多いのは意外でしたが、考えてみると広島県民でも広島空港から直行便のある海外都市を正確に答えられない人は多いでしょう。ましてや、その都市にどういう魅力があるかなんてなおさらです。訪日外国人客数は驚異的な増加率で、香港からの増加率はさらに上回ります。広島を訪れる方は、さらに上回っており、「今度は広島に行ってみたい」「もう一度広島に行ってみたい」と思っていただけるまちづくり、PR活動を地道に継続していくことが必要であると感じました。

今回のフェアを通じ、香港の人たちにさらに、広島の観光・文化、体験活動、産業等に興味と理解を深めてもらうことができました。

けん玉を楽しむ人たち

広島ブースの様子

NIGATA

新潟日本香港協会　事務局長　田中　湖雄

「香港ブックフェア」に参加して

7月20日より26日まで香港コンベンション＆エキシビション・センターで開催された「香港ブックフェア」に初めて参加して来ました。新潟日本香港協会からは、新潟市文化スポーツ部文化振興課、同じく観光・国際部国際・広域観光課、日本アニメ・マンガ専門学校（JAM）が参加しました。フェアは1週間に亘り開催され、新潟から13名と新潟市北京事務所から1名が前半と後半に分かれてシフトを組み会場にて対応しました。

多くの漫画家（代表的には赤塚不二夫、小林まこと、えんどコイチ、小畑健、叶精作、古泉智浩、近藤ようこ、斉藤富士夫、高野文子、高橋亮子、高橋留美子、魔夜峰央、水島新司、安田弘之、山田芳裕、わかつきめぐみ、など）を輩出している新潟市はそれらの作品を中心に観光の広報などをし、日本アニメ・マンガ専門学校は卒業生や学生の作品を中心に展示し、また先生方がマンガの描き方を香港の人たちに丁寧に教えていました。年齢層は圧倒的に若者が多かったのですが、中には自分の作品を持ってくる熱心なファンもいて驚きました。

日本館のある会場は香港コンベンション＆エキシビション・センターの3階のフードコートの奥で、メイン会場からは少し離れてはいましたが連日盛況で時には行列もできるほどでした。最初はちょっと場所が悪いかもしれないと正直思いましたが、これがメイン会場に面していたらきっと大変な混雑だったろうと思いました。あらためて日本のマンガ人気、クール・ジャパンの勢いを感じ取ることができました。

日本からの参加団体は新潟からの2団体の他に日本国駐香港総領事館・日本国際交流基金、日本政府観光局（JNTO）、埼玉県、和歌山県、兵庫県、広島日本香港協会、東北海道（網走市、釧路市、帯広市）、北九州市、株式会社KADOKAWA、コクヨなどでした。

新潟市と同じくそのほとんどの参加団体がマンガを中心に地元観光地やマンガのシーンでの舞台を宣伝し、それらのキャラクター商品を販売していました。

ブックフェア会場

日本館出展コーナー全体を見渡した限りの一番人気は埼玉県の「クレヨンしんちゃん」で、新潟市で一番売れたキャラクター商品は小林まことの「ホワッツ・マイケル」のクリアファイルだったそうです。ちなみに香港で一番人気の日本マンガの一つが、新潟市ではありませんが新潟県出身のしげの秀一の「頭文字（イニシャル）D」だそうです。

全体を通して感じたことはやはり日本のマンガ人気のすごさです。いま日本は海外からのインバウンド観光客がかなりの勢いで伸びていますが、このマンガ人気もそれらに一役かっていると言っていいでしょう。この香港ブック・フェアへの参加はそのインバウンドの大半がいわゆるゴールデン・ルートと言われる東京、富士箱根、京都、大阪方面から、地方に分散させる方法としても活かされると思います。

より多くの地方がこの香港ブックフェアに来年以降も参加し、オール・ジャパンとして日本館を盛り上げていくことを楽しみにしています。

日本のマンガ人気を感じられる

アニメ・マンガの体験コーナー

高知日本香港協会

“香港の夕べ”　伊東大阪事務所所長の講話の様子 in 加尾の庭

高知県内の経営者たちとの“香港の夕べ”開催

高知日本香港協会は、6月1日に発足したばかり。まだまだ生まれたばかりの新しい組織です。日本香港協会全国連合会でも第10番目となる協会で、他の地域の協会の活動を手本にし、今後の地場に根付いたオリジナルの活動や展開、会員様のフォローや新規会員様の獲得に向けて、日々努めております。

実は、高知県には、高知新港が整備されており、最近では貿易利用のみならず、世界中から大型客船、大型クルーズ船が頻繁に寄港するようになりました。そのおかげで、海外からの観光客も増加傾向にあり、高知市内も海外の方が出入りをし、活気付いてきております。その影響もあり、高知の独特の食文化や土産品などにも脚光が集まり、高知の世界への知名度も次第に増えてきているようです。また、四国で初めて、香川県の高松空港から香港国際空港を結ぶ香港エクスプレスの定期航空路線が9月から就航し、四国一円と香港とのつながりや交流もだんだん深まってきています。世界から見ても四国という場所は、“これから”新しい開拓の見込める土地のようです。

地元の一次産業（農林水産業）は、特にこの動向を推察し、早くから取り組んでおり、高知の農作物や加工品などの食品展示会には積極的に参加をしている地場企業も多いようです。

そのような気運高まる四国、高知県ですが、まだまだ『高知日本香港協会』としての地元への浸透は薄く、香港への展開はまだまだ協会を通して、というよりも各人での活動が多いことも課題としてあがっております。

そのため、早速、7月14日に、高知日本香港協会の知名度の向上と活動紹介を目的に、一般社団法人高知ニュービジネス協議会とのコラボ交流会である“香港の夕べ”というイベントを企画し、開催いたしました。このイベントには、香港貿易発展局大阪事務所長の伊東正裕氏に高知までお越しいただき、400年の歴史がある『土佐養生膳 加尾の庭』にて、講師として登壇していただきました。

この『土佐養生膳 加尾の庭』は、坂本龍馬の初恋の女性である平井加尾が晩年を過ごした庭園で、現在はレストランとして営業をされています。自由民権運動家の板垣退助もこの庭園内で謀議をめぐらせた、と伝えられるくらい高知県でも古くから特別な場所として使われてきました。そのような場所で、高知日本香港協会から8名の会員様が、一般社団法人ニュービジネス協議会から14名の会員様にご参加をいただき、伊東所長に「アジアのビジネスセンター ～香港を活用した海外事業展開」と題して講演をいただくと、参加者の皆様も香港という場所がいかに特別な地域で、今後のグローバルな展開がどれだけ身近になるのか、ということを肌で感じてくださったようです。

伊東所長には、設立総会時からお世話になり、その講話は非常にわかりやすく、高知には既にファンもいます。「高知県内の一次産業のみならず、今まだ注目されていないテクノロジーやサービスなどに光を当てると、世界に向けてまだまだ可能性がある！」と経営者の方々へ向けた力強いメッセージは、参加者の皆様に大きな希望の光を灯してくださいました。

今後、全国事務局長会議での他協会の学びを基に、今回のような他団体とのコラボ、県とのコラボも含めた活動を行い、世界に向けた発信を行っていく予定です。高知は、独自性の強い文化です。高知でしかできない、オリジナルの取り組みにもチャレンジをしていきたいと存じます。

1時間、3時間、5時間で東京を散策する

限られた自由な時間内で、あなただったら、何をしますか？

StayInspired.jp では、東京に“出逢う”ことができる、他にはない洗練されたプランをご提案しています。

CONRAD
HOTELS & RESORTS®

NEVER JUST STAY. STAY INSPIRED.
コンラッドに滞在すること。その街に出逢うこと。

ASIA EUROPE AFRICA MIDDLE EAST AMERICAS
CONRADTOKYO.COM #STAYINSPIRED